

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2372400248		
法人名	医療法人 宏友会		
事業所名	グループホーム 元気村 2階		
所在地	半田市浜田町3-10-5		
自己評価作成日	平成23年11月7日	評価結果市町村受理日	平成25年2月18日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku_ip/23/index.php?action=kouhyou_detail_2010_022_kani=true&JigyouvoCd=2372400248-00&PrefCd=23&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人あいち福祉アセスメント		
所在地	愛知県東海市東海町二丁目6番地の5 かえでビル2階		
訪問調査日	平成24年11月15日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「ゆったり 自由に 笑って過ごせるように」を理念に、日常の会話の中で各職員が利用者様の希望を理解する努力を行うと併に、できるだけそれに沿った支援ができる様に努めます

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所の周りには住宅が少ないが、大型のショッピングセンターやホームセンターがあり買い物客の賑いを感じ取れる。同建物には整形リハビリクリニック、同敷地内にはデイケア、訪問介護、居宅介護支援などの事業所もあり、医療・介護・福祉の拠点となっている。「ゆったり、自由に、笑って過ごせるように」の理念を共有し、入居者にしっかりと向き合い、うなずき、一人ひとりのペースに合わせた支援に努め、入居者と共に楽しみを持ちながらケアを行っている。運営推進会議に家族の参加が多くなり通常の内容の他に、介護に役立つテーマを設け話し合いをする機会もあり、参加者から好評を得ている。「スペシャルディー」と称する外出支援があり、入居者の希望が叶えられ、かつての馴染みの場所や人との継続支援にも繋げている。入居者は共用の居間で、好きな歌をうたったり職員とのお喋りを楽しみながらゆったりと時を過ごしている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらい <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらい <input type="radio"/> 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と <input type="radio"/> 2. 家族の2/3くらいと <input type="radio"/> 3. 家族の1/3くらいと <input type="radio"/> 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある <input type="radio"/> 2. 数日に1回程度ある <input type="radio"/> 3. たまにある <input type="radio"/> 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように <input type="radio"/> 2. 数日に1回程度 <input type="radio"/> 3. たまに <input type="radio"/> 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている <input type="radio"/> 2. 少しずつ増えている <input type="radio"/> 3. あまり増えていない <input type="radio"/> 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> 2. 職員の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 職員の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> 2. 家族等の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 家族等の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念は常に施設内に提示してあり、誰でもいつでも心掛けるようにして、職員全員が協力しあい実践するように努めた 理念に基く個人目標を掲げ全職員同じ理念を目標に日々実践している	新人職員は、日々理念を確認できるように理念を記したカードを携帯している。、理念を理解し実践に繋げるため、年2回個人目標を掲げ自己評価をし振り返りを行っている。職員全員で理念全体の振り返りを年に1回行い、日々のケアにいかすようにしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	周りに住宅地が無く地域との交流は難しいが、運営推進会議に招き交流している 時々ボランティアを招き交流している 利用者様の状態にもばらつきがあり地域との交流も難しい	大型のホームセンター以外周辺には民家が無く、地域との交流は少ない。町内会には加入していないが、町内会区長を介してホーム担当の民生委員が決まり、地域との交流を深める準備をしている。	地域とともに暮らすため、積極的な参加交流を期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ご家族の方には運営推進会議で認知症についてなどいろいろな議題を取り上げているが地域の方々には活かききっていない		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に一度の運営推進会議や半年に一度の家族会では報告や話し合いを行い、出された意見、要望はサービス向上に繋がるよう施設長より指示がでたり、職員間でも話し合うようにしている 参加人数も増えている	家族、地区民生委員、包括支援センター、市職員の出席を得て開催され、入居者の状況や活動報告、意見や要望の聴取等がされ、問題点等を評議しサービス向上に繋げている。また、介護保険法の改正や介護タクシーの利用法等のテーマを設け話し合いをし、参加者から好評を得ている。職員には会議内容をミーティングで説明し話し合いを行なっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	主に施設長、サブリーダー2名が窓口になっている 運営推進会議には、市の介護保険課、包括支援センターの参加を頂いている	介護認定申請や連絡、相談などで市職員とは情報交換を行っている。市から会議情報がメールで発信され必要に応じ参加している。同業者同士の会議にも出席している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	基本的に行わないが、やむを得ない場合に限りご家族の許可を得て時間を決めて記録をしながら行う事がある 職員は勉強会などを通じ理解している 玄関は夜間のみ施錠している 危険防止の為、施錠、4点柵を行う事もある	法人内で年に2回の研修があり、ミーティングでも話し合いを行ない理解を深めている。介護度の高い方のケアについては家族と話し合いを行ない同意を得ている。日々の実践の中で拘束について振り返りの機会を持つようにし、入居者が抑圧感のない暮らしに取り組むように心がけている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	日頃から変化が無いかしっかり観察し、申し送り等で話し合いを行い、防止に努めている 法人内の講習などで学ぶ事ができた		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	事業所や法人内の講習会があり、学んでいる資料の配布等にて後日も再度確認できるようになっている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	施設長とサブリーダー2名で対応している		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議、家族会、面会時等、意見要望をお聞きし連絡帳など活用したり、ミーティングなどの議題にしたりして職員全員が把握できるようにしている	入居者からは日常のケアの中で把握し、家族には運営推進会議や家族会、面会時などで意見や要望を聞くようにしている。また、家族向けアンケートも行い、これらの意見はミーティングで話し合い検討されている。家族にはホーム便りで状況を報告している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月のミーティングで話し合っている 施設長やサブリーダーへの連絡帳などを通して意見は聞いてもらっている 反映されているかどうかはわからない	日々の作業を一緒にしながら話し合いをしている。意見や要望は内容ごとの連絡ノートが作られ記載し、情報が確実に伝わるようにしている。これらの意見は必要に応じ、ミーティングなどで検討され運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	日頃から分からない事や質問などがあれば、すぐに施設長やサブリーダーに相談し返答してもらっている 年に一度面談がある 把握してない部分もある 勤務希望がシフト表に活かされている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人研修やミーティングで学ぶ機会を作ってくれたり、資料などを配布してくれている 研修があるがいつも同じ時間なので仕事の都合上、参加できない		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人研修で他の施設の職員と合う機会がある あまり機会が無い		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所の時にアセスメントさせて頂いているのでいろいろな角度からお話を伺っている ご本人とコミュニケーションを図り安心して頂けるように努めている 入所時ご本人とご家族との面談がある職員間で情報を共有している		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の面会時等、ささいな事でも現在の状態などを話し、コミュニケーションを取るようし安心して頂くようにしている ご本人やご家族にアセスメント作成時に話を伺い記録し、ケアプランに反映している		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	お話を伺う中で把握したりその時々で見直したりしながら、可能な限りご本人やご家族の要望など支援するよう努めている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日頃からコミュニケーションを図り、信頼関係を築き、家族のように楽しく安心感を感じて頂けるように努めている 洗った茶碗を拭いて頂いたり、洗濯物をたたんで頂いたりお互いに助け合いながら生活している		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族側の気持ちになって考え、理解できるように努めている ご家族によって意識に個人差がある ご家族とお話をする機会がある時は、最近の様子を伝え要望を聞いたり相談をしたりしながら情報を共有している		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	誕生日外出やスペシャルデーには馴染みの場所に行っている 折々にご本人の様子をお伝えし毎月広報誌で施設での様子をお伝えしている ご家族やお友達の来所持などいつでも遊びに来て頂けるようなお声掛けや雰囲気作りに努めている	誕生日を含め年に2回、本人の希望するところへ行き関係を継続させている。友人の来訪もあり、馴染みの人との関係を大切にしている。回想法も取り入れているが入居者の参加が少なく低調である。近くの大規模ホームセンターへの買い物や散歩などを通して、新しい馴染みの場所作りに心がけている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員が利用者様の輪の中に入り、お互いの家族や仕事などの話をし関わりを持つようにしている 席の配置を工夫し利用者様同士が少しでも多く関わり合いが持てるように努め、一緒にレクリエーションや供に行える家事など行っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	可能である事なら支援はさせて頂きたいと思うが、サービス終了後に連絡は殆どない為分からない ご家族からのアプローチがあれば喜んで支援する		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者様の状態で本人の意向を把握できない事があり、その際はご家族と話し検討している 少しでも意向に沿った暮らしをして頂ける様に努力しているが、100%は難しい 嗜好品を部屋に飾ったり、季節の行事の話など季節を感じて頂く	日常のケアの中で思いや希望を聞くようにし、言葉や表現の少ない方については表情やうなづきなどで確かめ連絡ノートに記録し、思いを共有するようにしている。本人の生活暦を参考にしながら思いの把握にも努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時のアセスメント作成時にできるだけ細かくご本人やご家族に伺い把握に努めている 入浴時などに情報収集に努め、職員間での経過等の共有は可能となっている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日誌やカルテの記録、申し送りなどで全職員が現状を把握した上で介護を行っている 変化が無いかをしっかり観察している		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	年2回のケアプラン作成時にご本人とご家族の希望を聞いて作成している 毎月のケアプランの評価で結果を検討している ミーティングで情報を共有し、全職員が同じ支援ができるようにしている	家族の意見を取り入れた介護計画を年2回作成している。入居者の状況を連絡ノートに記録しモニタリングを行い、随時見直しをしながら全職員が同じ支援ができるようにしている。作成担当者は、現状把握と計画作成の資料とし毎月「マンスリー-経過・評価シート」に記録し把握に努めている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	気付いた事はどんなささいな事でも日誌などに記入し、全職員が目を通している 毎月ケアプランの実践経過を記録し、日誌やカルテ、毎朝の申し送り、個人ファイル等も参考にしながら全職員で情報を共有してプランの見直しに活かしている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	法人内で必要なニーズに対して殆ど対応できるが、柔軟性がある方は対応の仕方にもよりできる範囲で努力している 現状の変化に伴いご家族と相談したり職員同士の話し合いで方向性を見極めている 1階のリハビリ施設を利用している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティアの受け入れを増やすようにしている ご家族の協力を得て、手作りおやつ作りを一緒に行ったり、歌のレクレーション(歌謡ショー)、フラダンスショー等楽しめる機会が増えている		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	二週間に一度往診ドクターが来訪され診察、指示を頂き、施設で処方された薬や身体状況等の情報を提供し、適切な医療を受けられる様に支援している 往診時、ご本人やご家族で話し合う機会がある 受診はご家族の了解を得ている	本人や家族の希望により医師を決めている。提携医は2週間に一度の往診があるが、かかりつけ医や専門医の受診は家族が対応している。かかりつけ医への受診の際には服薬や介護情報を提供している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	何かあれば常に連絡が取れる状態にあり、出された支持は全職員で共有している 病院受診の必要性を相談し、必要があればすぐに来訪できる状態にある		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者様の情報をできるだけ伝え、病院側の情報も得られる範囲内で受けており全職員で共有している 主に施設長とサブリーダーが窓口になっている 退院時サマリーにて情報を得ている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取り介護の研修を受けている ご家族に終末期に向けた説明を定期的に行うと同時に事前意向確認書にて書面に残しているが、早い段階からの利用者様との話し合いはしていない 日頃よりご家族の意向を聞いて利用者様の状態の悪い時など蜜に連絡を取り合っている	法人の看護師を講師として内部研修を実施している。終末期に向けて提携医や看護師の協力を得て3ヶ月に一度事前意向調査を行い、家族の同意を得ている。看取りは家族の希望により実施しており実績もある。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	市の救命講習を受けたり勉強会で緊急時に対応できるようにしている 職員同士で協力し、対応能力の向上に努めている パニックにならない様、電話の横にマニュアルが貼ってある 定期的に訓練を受けている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回消防の方が立会い避難訓練を受けているマニュアルの配布がある 地域の方々への声掛けを行っている	夜間想定訓練も含め、年に2回の訓練を行っている。非常時には法人の職員が駆けつけ対応する仕組みがあり、応援体制が整っている。地域の協力を得るため、近くの商店や運営推進会議で協力を依頼している。備蓄品や救急品は確保されている。建物の耐震補強は昨年に実施された。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	日頃から尊重するように心がけ、対応している敬語で対応し、「させて頂く」の気持ちなど常に注意するよう研修、勉強会などで指導を受けている言葉かけに注意するようになった これまでの生活を否定せず共有できるように心掛けている	人格尊重の意識を持ち、言葉遣い、言葉かけ、対応等、日々の業務の中や研修の折に指導を受けケアに心がけている。こだわりのある方には、なるべく本人と心が合う職員がケアするように配慮している。入居者や家族が嫌な思いをしないように、職員への意識付けに取り組んでいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の意思を表せない事もあるので表情などを感じ取って汲み取れるように努めている コミュニケーションを図り信頼関係を築き意思表示できる環境づくりやこちらから伺い決めて頂いたりしている 選択肢をいくつか用意しその中で決めて頂く		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者様のサインを見逃さず少しでも希望に添えるように努めているが難しい ある程度時間や都合を優先したり、決まり事はあるが居室で過ごされたり、リビングでぬり絵をされたりなどそれぞれ思い思いの一日を過ごされている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	殆ど意思疎通の取れない方もあるので、職員がその方らしいと思うおしゃれをする事もある 可能な方には起床時、洋服を選んで頂いている 全員に起床時暖かいお絞りで顔を拭いて頂いている 整髪は主に職員が行っている		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は一緒に楽しみながら、片付けは利用者様の体調などに合わせて一緒に行っている できる方が限られており〇〇のみという形でお手伝いして頂いている 一緒に味噌汁の具材を切ったり、おやつを作って頂いたりしている	配席は見守りや介助しやすいように身体状況に合わせて決めている。職員が見守る中で、下膳、食器拭きなどを手伝い保有能力を活かすようにしている。職員は見守りや介助をしながら食事をしている。時間で追うようなことはせず、その人のペースや食べ方に合わせ支援をしている。	食事は生活の中で重要な部分を占めている。一部の職員でもよいので、入居者と同じ食事を一緒に楽しく食べることを望みたい。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	摂取量が少ない方への工夫をしている 食事量のチェック表を作り毎食時記録している 必要な方には水分チェックも行う 食事形態をミキサー、極刻み、刻み、普通、おかゆ、軟飯、水分にはとろみ付き等細かく分け誤嚥を防止している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後必ず行うが拒否などでできない方もいるので、その際水などを飲んで頂く 自立されている方はご自分で、見守り一部介助できそうな方は一緒に行い、チェックシートでチェックしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	行っているが殆どの方がリハビリパンツを使用している 排泄チェック表で排泄間隔を把握して定期的なトイレへの誘導を行いトイレでの排泄を支援している リハビリパンツやパットの使用は職員間、ご家族とも相談しながら支援している	排泄記録を付けパターンを把握し、一人ひとりの素振りや表情を見ながら誘導をしている。日中はなるべくトイレで排泄するように心がけ、きめ細やかなケアに努めている。毎日ヨーグルトを食し整腸に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	できるだけ薬に頼らず、牛乳、ヨーグルトの摂取やトイレ時腹部マッサージなど行っている 排泄表の状況を見ながら便秘薬の服用をして頂いている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	曜日や時間など決まっているが、希望があればなるべく意向に沿いたいと思っている 菖蒲湯やゆず湯などで季節を感じて頂き入浴剤で保温をしている その方のタイミングに合わせて入浴して頂くが時間に追われ楽しんでおられるかは不明	希望があればなるべく意向に沿うようにしているが、午前是个浴、午後はミスト浴とし、二日置きの入浴である。湯温はその人に合わせ調整をしている。入浴時にコミュニケーションを図りながら介助している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	3階の方は休みたい時は自由に居室に入出できるが、2階の方は殆どがリビング内のソファやベッドで過ごしたりされ休息できている 夜間よく休んで頂くよう日中はなるべく活発に過ごして頂けるような工夫をしている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬チェック表を使い誤薬防止に努め、薬剤情報により用法、副作用の確認をしている 処方薬の変更や中止があった時には必ず申し送り職員間で情報を共有している 個人別にまとめ疑問があれば看護師や薬剤師などに確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	以前畑仕事をしていた方にはプランター農園に参加頂いたり、誕生日やスペシャルデーなどの外出で気分転換ができるようにしている 洗濯物たたみや茶碗拭きなどできることをお願いしてお礼を伝える事で喜びを感じてもらっている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	その日の希望に沿うのは難しいが年に一度の誕生日日外出で本人の希望を聞き、外出している もっと回数が増やせるといいと思う 行事としても度々数名での外出を行っている 誕生日日外出では好きな物を召し上がって頂いたり、ご家族に近くへの散歩をお願いしたりしている	日常的な外出は少ないが、近くのホームセンターや洋品店で買い物をしたり、散歩をする機会もある。スペシャルデーにはリニア鉄道館、ナゴヤドームなど本人の希望する場所への外出も行っている。また、外食、花見、ビーチランドなどの外出も行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	数名の方を除いて自己管理が難しい為、施設長とサブリーダーが管理している ご自分で所持されている方も数名みえ、職員と一緒に出かけ買い物をして頂く事もある		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があればできるだけ支援している 事前にご家族に了承を頂き電話をかけたたりしている		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	トイレには空調がないので夏は暑く冬は寒くお湯が出ない 滑りやすい ミスト浴は冬寒い 壁面を利用して利用者様の作品展示で季節感を感じて頂いたり一緒に毎月のカレンダーを作り展示している	台所と一体となっている1階・2階の共用の居間は、テレビやソファ、休憩用のベット、一角には畳があり寛ぎの場となっている。自室で過ごす方も居るが多くはここで過ごしている。壁面には、ぬり絵、折り紙、行事の写真などが飾られている。廊下には椅子が置かれ休めるようになっている。ラジオ体操をしたり歌をうたったりして過ごしている。	長い時間居間で過ごす方には、気分や体位を変え居心地良く過ごせる場を確保し、よりきめ細やかなケアができるような工夫を願いたい。
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	殆どの方がリビングで過ごし、臥床が必要な方や自室で過ごしたいという方は自室で過ごされるリビングにはソファや畳コーナー、廊下にはベンチなどがあり思い思いに過ごされ、テーブルには話の合う方3~4人位で座って頂いている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人やご家族の希望でご家族との写真や置物を飾られている 入居中の写真を飾られている方もみえる 入居の際その時々ご家族で使用されていた物や馴染みの物をお持ち頂いている	本人が馴染んだ小物、写真などが飾られ、個々に応じたプライベートスペースとなっている。入居者の状態によってナースコールが取り付けられている。掃除が行き届き清潔な居室である。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	極力自立を促し、その方に合った介助を行う努力をしている 可能な限り自立のお手伝いをしたいと思っているが、限られた人員、時間では難しい時もある 手摺りの設置や場所の表示など工夫している 建物が古いので段差があったり改善したい所はある		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2372400248		
法人名	医療法人 宏友会		
事業所名	グループホーム 元気村 3階		
所在地	半田市浜田町3-10-5		
自己評価作成日	平成23年11月7日	評価結果市町村受理日	平成25年2月18日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/23/index.php?action_kouhyou_detail_2010_022_kani=true&JigyosyoCd=2372400248-00&PrefCd=23&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人あいち福祉アセスメント		
所在地	愛知県東海市東海町二丁目6番地の5 かえてビル2階		
訪問調査日	平成24年11月15日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>利用者様となるべくコミュニケーションをとるようにし、忙しい中でも職員との信頼関係を築いていけるように日々している。行事や家族会やレクリエーションなど利用者様の状態は人それぞれ違って統一して行う事は難しくなっているが、喜んで頂けるように頑張っている</p>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p> </p>

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念をもとに個人別実行計画書を半年に一度あげて職員で協力し合って実践している 施設内に理念の提示をしており皆が日々、それを目にしながらか実践へとつなげられるようにしている		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	周辺に大型スーパーができたが住宅街では全くない為繋がりには難しいが、廻りに月刊誌みたいなものを配布したらどうかという案が出ている 店を利用することで社会とのふれあいを育てるよう考えている ボランティアの訪問を依頼している		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	周辺施設に個人情報に配慮しながら理解を得るようパンフレットを考える案が出ているが、実践には至ってはいない 地域に対しての還元はできていないが、ご家族に対しては日常的、運営推進会議などを活かしている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	二ヶ月に一度、いろいろな勉強会や報告会等、意見を出し話し合いを行いサービス向上に努めている この施設の取り組みが理解して頂けるように努力し参加者も増えている ご家族とのコミュニケーションとしても活かされている		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議には毎回市の介護保険課に声掛けし、生活支援センターの職員と供に参加して頂いたりして意見交換の場となっている 施設長やサプリーダーが窓口となっている		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	危険が及ばない限り拘束などはほぼしていない。離設時等職員や施設、タクシー会社など協力体制等をとれるようにしている 身体拘束についての勉強会があった 日常的な施錠が行われる場所があるがご本人、ご家族に承諾を得ている		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	日々身体の変化を注意深く見て変化があれば申し送ったり原因を探り、医療への連絡を速やかに行っている 小さな内出血、傷まですべて記録し職員同士で防止に努めている 勉強会や資料の配布がある		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	休憩室に資料を置いたり、法人で勉強会があったり講習会に参加したりしている 必要な状況になれば支援できる体制はできていると思う 個人的に学ぶ機会を得た		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所時にご家族、ご本人に説明し理解して頂いてる。その後も何かあれば疑問点などに誠意を持って答えている 主に施設長、サブリーダーで対応している		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会や運営推進会議等外部からの参加もあり要望、意見交換などを反映させている。来所時、電話等日常的に必要な情報や意見の交換を行い、職員間で意識付けている		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月のミーティングや日々の申し送りなど日常的に意見交換をしている。不在時も意見、提案を連絡ノートなどで出していけるような環境が整っており出された意見は反映されている		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	条件的には人手不足等などがあってなかなか思うようにいかない面もあるが、意見を言いやすい状態であるようにしている 年に二回の個人目標などの提出がありそれに基き努力している 労働条件については意見を聞いてもらえている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内での研修や講習会が定期的開催され、又プリント等で情報を共有している 不定期に法人外の研修の情報も提供される 公休、有給を利用して社会福祉士の実習に行った スケジュールを決めて一つずつ覚えられる		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内研修などで会う機会はあるがなかなか交流するところまではいっていない 個人的に取り組んだ 他の事業所を経験した職員の話の聞くという形でできている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者様となるべくコミュニケーションを図り信頼関係を築くことで不安や困っている事などを聞き出して職員同士で情報交換して不安を軽減するように努め関係を築いていくようにしている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族にも常に利用者様の状況や状態を詳しくお話をして信頼関係を築いていくようにしている 初期には頻繁に足を運んで頂いたり要望をお聞きしたりしている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	最初によくお話をして何が必要かどうしたいのかななどをお聞きしていくようにしている。その後も話をなるべくしてその時の状況によってより過ごしやすいくようにしていくように努めている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	その方の状態によって難しい時もあるがその人らしく過ごして頂けるような支援をしたり、ご意見をお聞きしながら暮らしを共にする中で担う役割を見つけやりがいを持って頂けるように努め、個々に合ったレベルでの支援、協力を考えている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	来所時、家族会・運営推進会議・電話等でご意見や要望をお聞きし、一緒にご利用者のことを支えていける関係をつくるように交流をしているが、なかなかお話できない方もみえる ご家族の協力でおやつ作りや歌謡ショー等を行った		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	スペシャルデイなどで行きたい所に行ったり、行事に家族に来所頂いたり、一緒にお食事したりしている ご本人の希望やご家族の協力が得られる方についてはそれに担うような支援を考えている 誰でも訪れやすい雰囲気作りに努めている		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	席の配置をなるべく気の合う方にしたりお手伝いやレクを通して交流をお互い図れるように職員が間に入ったりしている 個々の暮らしを大切にしながら、集団生活を楽しく送って頂けるように支援していく		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ご相談があればお話を聞いていく姿勢ではあるが、ターミナルケアをしているので最後までケアさせて頂く事が殆どである 亡なられた事が原因のケースは自然に消滅し、入院等症状悪化が原因のケースでは必用に応じ経過フォローしている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	希望やご意向の把握できる方やお話や理解できる方はご家族と相談したりして検討しているが、状態によってはできない方も増えている 日々の会話からご本人の思いを汲み取りケアプランに活かし、本人本意の生活を送れるよう支援していく		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	普通の会話の中でコミュニケーションをとり、今までの暮らしや生活の中での事をサービスに活かせるようにしている アセスメントの際、いろいろな情報を提供して頂き職員で共有している 入所の際馴染みの物を持ってきて頂いている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	いろんな情報を職員が共有し把握できるように申し送りや連絡帳やカルテ等に記載している 申し送りの際に個々の状況、体調など必要な事を伝え記録し職員間で情報を共有している		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	半年に一度ケアプラン、ミーティングや書面を全員が目を通すなどして意見や希望などを伝え合っている ご本人、ご家族、職員の思いをそれぞれ取り入れ課題に取り組み、細かな状態の変化に対応している		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の中で利用者様のその時々々の状態や状況に応じて、職員で話し合っている 職員全体に共通理解が出来るよう細かな記載と申し送りに努めている 担当者の計画に対して、全員で検討し意見を反映するようにしている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	いろいろなニーズに対応できるよう希望をとり入れ、多方面より対応できるよう努めている 法人内にいろいろな施設、病院があるので多機能なものの利用は可能で必用に応じ検討していく		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティアなどは受け入れたり依頼している 又近隣にも施設を理解してもらうようにしている ご家族の協力により、ボランティアでおやつ作りや、歌謡ショーなどの楽しみが増えた		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	隔週に往診があり、その時何かあれば他の病院に紹介状や薬剤情報や身体状況を持ってご家族と説明納得の上受診している かかりつけ医の受診を希望される場合は情報提供を行いスムーズな受診に繋がる様に努めている		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	常に連絡をとり指示を受けて何か急変や変化があれば適切な対応をしている 看護師の必用に 応じた訪問があり、電話にて連絡を蜜にとっている 1階病院の看護師、医師との連絡も必要に応じて行っている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	職員が何度か病院の方に行ったりご家族と連絡を取り合って情報や相談にのっている 電話、ファックスなどでご家族、病院などと情報交換をしている 退院時はサマリー等で入院中の様子、退院後のケアについて情報を得ている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ターミナルケアの希望をご家族、ご本人と話しをし、主治医やナースの協力のもと確認書をもとに取り組んでいる 事前意向確認書により3ヶ月に一度家族の終末期においてのケアについて考えを早くから打診している 事前に勉強会を行っているので、落ち着いて対応できた		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	日々急変時の対応を話し合ったり勉強したりしている 市での訓練も参加するようにしている 電話の側にマニュアルが張り出している 救命講習を受講し技術を見に付けた		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災訓練を定期的に地域の協力のもと行ったり、マニュアルを配ったりしている 地域との協力体制については不明 定期的に訓練を受けているが不安		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者様の人格に合わせて言葉掛けや対応しプライバシーに配慮したトイレ、入浴介助をするようにしている 接遇の勉強会に参加した 尊厳を守る対応をと思っているが、特に排泄に関してトイレの環境や車椅子に対応してない事も多い難しい		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	意志や自己決定ができる方にはその時々に応じ希望をお聞きし、難しい方でも表情などから読み取るようにしている 自己主張できない方も思いを汲み取れるようイエス、ノーで答える質問や身振りを利用し表現や反応を促している		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者様のペースや希望に合わせて過ぎて頂くようにしているが、2, 3階と分かれていて難しいところもある「寄り添うケア」を念頭にしているが、一日の流れの中で職員の都合を優先される事も少なくない 食事の時間が不規則な方もいる		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご自分で意思表示できる方は支援し、身だしなみを整えてもらい、定期的にご本人の希望を聞きながら美容許可を持った職員が髪をカットしている 季節に合った装いや衣類のほころびなど気をつけているが十分でない 個人差がある		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	難しい方も多いが、片付けの食器拭きやおしぼりたたみや野菜の下準備などできる方にして頂いたり、おやつ作りや行事でバイキングや外食などをしている 準備に携われる利用者様も少なく食器拭きなどは1/3程度の参加が現状である		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量はチェックを毎回し食べやすいようにトロミをつけたり、食事形態やスプーンやお皿を工夫したりしている 必要な方には介助を行い、食事量や水分が摂れない時にはお好きな飲み物をお出ししたりおやつ、補助食品などで対応している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後チェックシートにて全員行っている 出来ない方は職員が介助にて行っている ご本人の力に応じたものになっているかは不明 職員の都合が優先されているように思う 週1回義歯の洗浄を行っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人一人の排尿、排便パターンに合わせて誘導介助を夜間も含めてしている また残存機能を活かした介助を行うようにしている 排泄表により排泄パターンを把握し定期以外の誘導も状況に応じて行っている 研修を受けている		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	薬などに頼るだけでなく、毎日ヨーグルトや牛乳、マッサージを含め、自然排便を促すようにしている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	時間帯はある程度決まってしまうが、入浴時にゆずや菖蒲など入れたり、その日の気分により介助したり会話を楽しむようにしている 午前中に一般浴、午後ミスト浴を実施し、2～3日に一度の入浴は可能 職員の都合が優先される事が多い		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	生活習慣に合わせて臥床してもらったり臥床時間をその人によりTVを見てもらったりしている 日中、自室で休める方とそうでない方がいるが、2階、3階と居室が分かれている為、リビング内にベッドが用意されている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	症状により主治医に処方してもらい副作用なども調べてその後の変化にも注意している 利用者によりスムーズな服薬ができない事もあるが、工夫して確実な服薬をして頂くように努力している 薬の変更に関して確実な申し送りを心掛けている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	介護度や一人一人の出来る事に差が出てきてはいるが、誕生日やその方が行きたい所などに行けるスペシャルデーや行事、外出など毎月計画している 役割を持つ事で張り合いに繋がればと思っている ご家族へ外出の依頼をしている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	行事で外出したり、スペシャルデーなどで行ったりする他、買い物などで日常的に出掛けたりしている また墓参りや家族と一緒に食事なども行えるようにしている 外出企画もあるが難しい利用者様もでている 日常的な外出は隣の店舗へ出かけている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い物ついでにお好きな物を買ったりされる方もみえるが、殆どの方は自己管理も難しくなっている 殆どの方がお小遣いとして施設で預かり、使用の際はご家族の了解を得ている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望で電話やはがき、手紙などやり取りしている		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎月手作りカレンダーを利用者と一緒につったり、空調で温度調節したりしている また花を飾ったり、料理でも季節感を出すように流しそうめん、すいか割りなどしている リビングや居室の壁紙が新しくなり、雰囲気明るくなった		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	自室で過ごされたり、リビングで気の合った方と過ごされたり、TVの前のソファに座ったりと思いに過ごされている 廊下やリビング内にソファや椅子が設置されており、希望に応じて過ごして頂けるようになっている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	写真やカードや色紙を飾られたり、TV、ソファなど置いてみえる方もいる 居室に物が多い方は整理整頓が不十分となってしまっている リスクの多い方が多く、居室のスペースも関係し、なかなか好みの家具を持ち込めない		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	できるだけ安全で安心して暮らせる環境を作れるよう常に改善している 居室には名前や写真がありトイレなど大きく表示して分かりやすくしている トイレの入り口などの小さな段差が解消されていない為、シルバーカーなどの障害になっている		